

## モーニングセミナー4

|            |                                                                              |
|------------|------------------------------------------------------------------------------|
| <b>演題名</b> | 訪問診療・訪問看護における医療処置について考えましょう！<br>―― 胃瘻・経鼻胃管・気管切開・尿道カテーテルの日常対応・緊急対応・トラブルの実態 ―― |
|------------|------------------------------------------------------------------------------|

### 概要

「他施設では、どの位の頻度でカテーテルを交換しているのか？」  
「カテーテルを患者宅で交換すると、どの位、合併症が出現するのか？」  
「在宅患者のカテーテルの事故抜去、閉塞時の緊急対応をどうすべきか」  
「他施設では、カテーテルの交換を、医師がしているのか、看護師がしているのか？」  
「他施設では、胃瘻や胃管の交換時に、胃内に挿入されていることをどのようにして確認をしているのか？」  
などを疑問に持たれたことは、ありませんか？

- ・在宅医療を推進していく上で、医療処置を標準化する必要がありますが、その実態は不明であり、東京大学高齢者社会総合研究機構の我々（木村琢磨、吉江悟、土屋瑠見子、川越正平、平原佐斗司、飯島勝矢、辻哲夫）で、検討しております。
- ・今回、その一貫として、東京近郊4都県（東京・神奈川・埼玉・千葉）および被災された2県（岩手・宮城）の「訪問診療を行う診療所（5828 施設）」、「訪看（1798 施設）」の医師・看護師を対象に、胃瘻・経鼻胃管・気管切開・尿道カテーテルの日常対応・緊急対応・トラブルの実態調査を行いました。
- ・本モーニングセミナーでは、上記の結果概要をご紹介します。
- ・そして、在宅医療における医療処置の現状について皆様と共有した上で、現場の皆様方から様々なご意見を頂けたらと存じます。
- ・当日は、結果の概要を資料として、お配りする予定です。

訪問診療・訪問看護に携わっておられる医師・看護師など医療職の皆様はもちろん、ケアマネジャー、介護職・福祉職の皆様を含め、是非、ご参加を頂き、ご意見を頂けましたら幸いです。お待ちしております。